

広報さとる



発行日:2025年4月25日(NO.037) 発行所:トヨタ自動車労働組合
発行人:近藤大輔 編集人:井出さとる 印刷所:(株)トヨタエンタプライズ

リーマンショックの教訓を活かし、次世代の投資が両立できる財政運営を!

先日、市内中学校の公民の授業に市議も話し合いのメンバーとして参加しました。その時、中学生からの「裾野市にお金が無いのはなぜか?」という質問に、議員を代表し市の財政状況を解説しました。裾野市の財政力は高いが、借金返済などの固定費が高止まりし、自由に使える原資が制限されていることを説明し、今後はどのような財政運営を目指すべきかを、私見を交えて解説しました。

生徒は「お金が無いのではないことが分かって安心した。」との感想を述べていました。しかし、若者たちに広まっている「裾野市はお金が無い」というパワードワードの強烈さに危機感を感じています。

市の魅力と郷土愛を高めるためには、「裾野市はお金が無い」という認識を改める取り組みと共に、**収入に対し、固定費の捻出と投資が両立していることを毎年明らかにすることで、市の将来に明るい展望を示し、「財政非常事態宣言」の解除を論理的に行うよう、一般質問で訴えました。**

現在、裾野市は歳入歳出構造の抜本的な再構築を進めていますが、一方で、市民、若い世代への情報提供に課題を感じているとのことです。**公民の授業にて行なった中学校の3年生へのアンケートでは、97%が「裾野市を離れて生活したい」と回答し、若い世代の郷土離れ意識が深刻です。**

裾野市に対する若い世代の不安のイメージが根強いことから、**市民との対話と情報発信を通じて、市の実際の財政状況を理解し、郷土愛を育む取り組みが喫緊の課題です。**



一般質問YouTube

令和6年度予算の執行に関する決議を可決

将来投資と行財政構造改革の両立を目指し、令和6年度中に財政非常事態宣言の解除を目指す旨が示されました。一方で、当初予算でも示された令和6年度以降の大型公共事業や将来投資事業などの財政影響については、執行部内で積み上げて検証中とのことですが、現時点では市民に示されていない状況です。

そこで、令和6年度予算の執行に当たり、適切に措置を講ずることを市長に求める決議を可決し、市長に提出しました。



(以下決議内容)

1. 大型公共事業や将来投資事業など主要事業の年度別計画と今後の財政見通しを、市民に明らかにした上で財政運営を行うこと。
2. 高齢者福祉施策について、健康増進や生きがいづくりを目的とした事業を推進するにあたり、高齢者全般を施策の対象として広く行き届くよう実施すること。
3. 裾野市総合計画で示される目標達成に向け策定した各種計画については、切れ目が生じないよう計画期間毎に評価を実施し、施策に対する効果を図ること。

以上、決議する。

連合静岡)行政要望に 対する裾野市の回答を 受領しました!

働く仲間で構成する、連合静岡の沼三地協が裾野市に提出していた行政要望に対し、裾野市の村田市長より沼三地協役員に回答書が渡されました。受領後の意見交換では、裾野市が目指す「**日本一市民目線の市役所**」の実現に向け、窓口の改革(フロントヤード改革)を全国自治体の先進自治体として先駆けて取り組む、との説明がありました。



フロントヤード改革では、①書かない、②待たない、③迷わない、④行かない、を実現するために、窓口の概念を根底から変革し、市民の利便性を最大限に向上させていくことを目指していることなどが裾野市から紹介されました。

沼三地協役員も、村田市長も、共に「連携を密にして、コミュニケーションを高めていくことが重要」との見解を示され、今後、裾野市が働く者にとって住みやすい街を目指していく事をお互いに確認できた前向きな意見交換となりました。

一般質問で提起し続けてきた「道の駅」の設置 に向けた調査が本格的に始動しました!

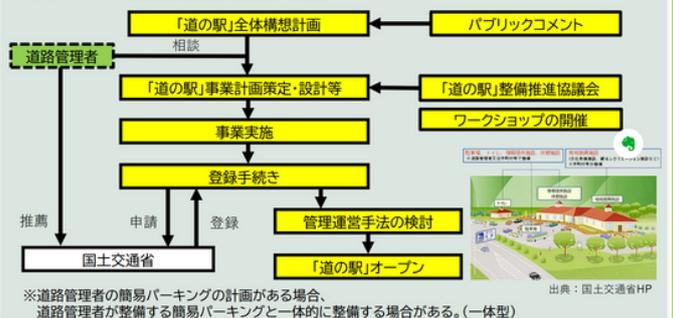
あらゆるモノが、コンビニやインターネットで容易に手に入る現代において、「そこに行かなければ味わうことができない、手に入らない」という「**コト消費**」「**着地型観光**」による魅力創出は、静岡県東部地域の魅力を発信し、地域を元気にするためにも重要な取り組みです。

裾野市が設置を目指す「道の駅」は、首都圏から100キロ圏内、インバウンドにおける関東一関西間のゴールデンルートという地理的優位性を活かし、本市の魅力を再発見し更に高める場としての拠点機能を実現することが必要です。

裾野市の地域資源の魅力に対する感動体験を通じて、静岡県東部地域全体としても、強力に情報発信を広げて、東部地域全体を盛り上げていくことを目指すチャンスが来ています。

4. 今後の整備フロー

整備フロー概要は下図の通りです。



また、裾野市の主要幹線道路に防災拠点施設として道の駅を設置することで、今後想定される富士山噴火や南海トラフ沖地震などに対する、広域的な災害対応を効果的に行う防災機能の拡充も実現できると考えます。

